

# 下庄をよくする会

## 1 基本データ

- 地区名 下庄地区
- 人口 9,107人（平成25年1月）
- 世帯数 2,891世帯（平成25年1月）
- 地区の沿革

下庄地区は大野市の北西部に位置し、勝山市に隣接しています。昭和29年に2町6ヵ村が合併して大野市が誕生した時に、下庄町も大野市に編入されました。大野市の市街地と勝山市に挟まれた形であり、奥越地区全体から見ると中心地域として、国の九頭竜川ダム総合管理事務所や県の奥越土木事務所、奥越合同庁舎のほか、ビュークリーンおくえつ、県立高校、警察署、郵便局等の官公庁等が集中しており、国道沿いには複数の郊外商業施設も進出しています。また、中部縦貫自動車道の大野ICも当地区に設置され、平成25年4月24日に供用開始となり、これに併せ、国道157号の大野バイパス（東縦貫線）も整備されました。

- 実施主体 下庄をよくする会

## 2 現状と課題

### ○現状

- ①市街地に隣接しているため、地区内は農家と非農家が混じり合っています。さらに細かく見ると、農家が多い地域、農家と非農家が混在する地域、非農家が多い地域に分けられます。
- ②地区内の行政区や各種団体は、既に様々な地域づくり事業を、活発に行っています。
- ③新たな幹線道路に隣接した堂本では区民による地場野菜の販売所開設が見られ、矢では独自にカタクリや桜を中心とした公園整

備やイベントの開催、陽明町では古くから伝わる不動明王と御堂の建替事業などのそれぞれの資源を生かした地域づくり事業を行っています。

### ○課題

- ①地区内では、新たな幹線道路、商業施設等に隣接し、人の往来が多くなる地域と、現状では人の往来の増加を望めない地域があり、区民の地域づくりに対する意識の違いがあります。

- ②地区民が交流することで、団結力を高め地区内を元気することを目的に毎年10月、「下庄まつり」を開催しています。毎年、地区内外から多くの人を訪れています。

まつりでは、地場野菜を販売する「青空市」や地区民による「フリーマーケット」が開かれ、好評を博しています。



(下庄まつり「青空市」の様子)



(下庄まつり「フリーマーケット」の様子)

③下庄をよくする会では、地区内の33区毎に「地区推進委員」を選任してもらい、各区とのつながりを大切にしていますが、会議や活動への参加率は低く、一部の委員への偏りが多くなっています。



(レジシステム操作勉強会の様子)

### 3 事業の内容

#### ○平成22年度

直売所やフリーマーケットの開催や地区住民の交流の場として、拠点施設を整備。その名称を公募し「下庄青空市」と決定しました。また、地元農林産物の直売所開設に向けて、奈良県明日香村での先進地視察研修を実施しました。



(視察研修の様子)

#### ○平成23年度

地域づくり拠点施設「下庄青空市」での地場野菜等の販売に必要な備品を整備。出品者や地区推進委員等との連携による「下庄青空市運営協議会」を設立し、地元農林産物の直売所「下庄青空市」の定期開催（6月26日～11月27日の毎日曜日：午前8時～12時）を行いました。

施設整備では、農林産物の鮮度維持のために日除けの工夫を施したほか、建物の隙間を利用した物品保管スペースを確保しました。

啓発活動としては、ポスターの掲示や大型告知看板の設置、福井新聞のぷりんを活用した広告を行いました。

#### ○平成24年度

前年度の反省を踏まえ、開催時間等を変更し直売所「下庄青空市」を定期的で開催（6月24日～11月4日の毎日曜日：午前7時30分～10時30分）しました。また、運営体制の安定化を図るため、レジシステム操作勉強会や野菜の作付け講習会、先進地視察の開催とあわせ、夕市や公民館・勤労青少年ホームの講座と連携した取組みを行いました。



(日除けの為の可動式庇)



(「ぷりん」での広告)

#### 下庄青空市夕市開催

大野市下庄をよくする会では地元農林産物の直売所「下庄青空市」を毎週日曜日の午前7時30分～10時30分に開催しています。本日21日は午後4時から、特設夕市を開催します。お彼岸用の供花や新米等を用意して皆さまのお越しをお待ちしています。  
場所：大野市下庄公民館の隣  
TEL0779-66-2142



#### 4 事業の成果

○地域づくり拠点施設としての「下庄青空市」は、直売所「下庄青空市」の定期的な開催のほか、公民館・勤労青少年ホーム利用者の駐輪スペースや雨天時のイベント会場などに広く活用されており、地区住民の情報交換や交流の場として定着してきています。

○直売所「下庄青空市」の運営には、農産林物の出品者を主体として立ち上げた「下庄青空市運営協議会」が携わり、生産農家の経営意識が高められました。また、直売所「下庄青空市」と連携した野菜等を購入し調理する講座の開催や、下庄地区社会福祉協議会が世代間交流事業として、子ども達の農業体験を行なっている「下庄っ子農園」で採れた野菜の試験的な販売などにより、地元農林産物への関心を高めることができました。



〔青空市の野菜をトッピングしてピザを焼いた「ドラム缶で焼くピザを楽しむ会」の様子〕

○直売所「下庄青空市」の運営状況及び成果

##### ①平成23年の状況

6月26日から11月27日までの毎日曜日、午前8時から12時まで開催しました。合計24日の開催で、総売上額は約60万円でした。一日の平均売上額は約2万5千円、客単価は478円となりました。

開催時間の後半はほとんど来客が無いこ

とや、朝日の差し込みが強いことなど継続していく上での新たな課題が分かりました。

開催日数	出品数	販売数	販売額	客数
24日	6,683点	4,239点	597,409円	1,249人
1日平均	278.5点	176.6点	24,892円	52人

※1人当たり購入単価 478円

##### ②平成24年の状況

6月24日から11月4日までの毎日曜日、午前7時30分から10時30分まで開催しました。合計21日開催で、総売上額約46万円でした。一日の平均売上額は約1万9千円、客単価は515円となり、売上額の実績は前年を下回りましたが、客単価は約40円上がりました。客単価の増加は、一人当たりの農林産物購入品数の増加にもつながっており、良い意味でとらえると、ファンとなったお客さんが出てきた（固定化してきた）ものと考えられます。

開催日数	出品数	販売数	販売額	客数
21日	4,778点	3,423点	458,910円	891人
1日平均	199.1点	142.6点	19,121円	37人

※1人当たり購入単価 515円



(直売所「下庄青空市」の様子)

### ③広報活動の状況

各年度ともオープン前に、機関紙や区長、地区推進委員等を通じ農産物の出品者の募集を行うとともに、ポスターやチラシによる広報などを行いました。平成23年度は、近隣スーパーとの連携による広報により、広くPRすることができました。平成24年度は、9月21日開催の夕市に合わせ、福井新聞の「ぷりん」に広告を載せ、来客数、売上額に大きな効果を得ました。

## 5 今後の展望

現在まで取組んできた直売所「下庄青空市」については、今後も継続していきたいと考えています。そのためにも、出品者の資質向上に向けた野菜や栽培の勉強会、購入意欲を高めるレシピの作成や、料理教室の開催など、様々な事業を展開していく予定です。

方針としては、①直売所「下庄青空市」の更なる運営体制の安定化を目指し、広報活動を充

実するとともに出品参加者数の増加を図る、②直売所「下庄青空市」と地域との連携したイベント等を充実させていく、③出品数の確保、品揃えの充実を図るため、加工品の生産について積極的に取組むなどについて積極的に取り組んでいきたいと考えています。さらに現在、若い年齢層の地域づくり活動への参加（主催者側として）が少なく、これからの担う後継者の育成が大きな課題となっていることから、これを解決していくため、若い年齢層が集まりやすいような環境づくりや事業展開を図っていききたいと考えています。

越前おおの地域づくり交付金を活用してきた取組みの成果を、本当の果実としていくため、中部縦貫自動車道の全線開通を見据えた中で、地域づくり拠点施設「下庄青空市」のより効果的な活用を図りながら、若者も巻き込んだ事業展開により下庄地区の活性化につなげていきたいと考えています。

